

P.U.P. News

VOL. 7

2018年12月20日(木)発行

発行元：進路指導部

油断大敵！

いよいよセンター試験まで約1ヵ月です。受験生へ私から一つだけアドバイスです。試験会場では携帯電話の電源を完全に切って下さい。前に私が携帯をマナーモードにして教員免許更新のテスト中、突然「緊急アラート」が鳴りパニックになったことがあります。試験に集中するためにも必ず電源をOFFにしてください。(マナーモードでもスリープモードでもダメです。鳴ります。)

もう少しで冬休みですね。冬休みの宿題はもちろんですが、今年習った分野の復習をじっくりやり、年明けには元気でパワーアップした姿で会いましょう！

今回はセンター試験までの準備と注意事項を紹介します。(謝敷)

センター試験

☆試験当日の朝までに確認すること

センター試験の当日の朝は、誰しも不安になったり緊張したりするものです。ここでは、試験に万全の態勢で臨むための準備と注意点を確認します。当日の注意点については、受験案内や受験票、受験票と一緒に送付される「受験上の注意」にも書かれていますので、しっかり読んでおきましょう。

■体調管理はしっかり！

入試の時期は風邪などで体調を崩しやすい時期です。ワクチン接種をしたり、こまめなうがい・手洗い、十分な睡眠・食事をして、日頃の体調管理にも気を配りましょう。試験前日にゲン担ぎに「カツ丼」を食べるといふ人もいますが、食べ慣れないものを食べて、かえって体調を崩してしまった、とならないように注意しましょう。

試験前日、準備が完了したらできるだけ普段どおりの生活をしましょう。緊張して寝つけなくても、暗い部屋で横になって目をつぶっているだけでも体は休まります。

試験当日も緊張を感じたら、まずは深呼吸。鼻から吸って口で吐くと、緊張がほぐれます。温かい飲み物など、気持ちが落ち着くアイテムを用意しておくのもひとつの手です。

緊張しているのはみんな一緒です。今までがんばってきたことを思い返して、自信をもって試験にむかきましょう。



■持ち物の確認 ～前日と当日に確認しよう～

持ち物は早めに準備して、鉛筆等不足がある場合は買い足しておきましょう。忘れ物がないように、前日と当日の朝に確認をするようにしましょう。

■試験会場を確認 ～会場には1時間前の到着を目安に～

できれば事前に試験会場の下見をしておきましょう。当日初めて試験会場に向かうのでは、予想以上に時間がかかったり、受験する教室が分からず迷って遅刻ということにもなりかねません。下見ができない場合には、バスの時刻や所要時間、会場までの道のりを事前に確認しておきましょう。センター試験は土・日に実施されるため、交通機関の運行ダイヤが平日と異なる場合があります。下見をする際にもこの点に注意が必要です。

また、当日に雨で渋滞による交通機関への影響も考慮し、リスクの少ない経路を選びましょう。前日から気象・交通情報はチェックしておきましょう。当日は交通機関の遅延なども考慮して、1時間前には試験会場に着くよう余裕をもって家を出発しましょう。早く着くことで、試験場の雰囲気にも慣れ、心に余裕が生まれます。万が一、電車が事故や雪で遅れるなど不測の事態があった場合、試験時刻を繰り下げることもあります。慌てずに試験会場に向かうことが大事です。

寝坊などによる遅刻で、試験開始時刻に間に合わなかった場合も、試験開始時刻後20分以内であれば受験が認められます(英語リスニングは試験開始時刻まで)。

なお、試験は指定された会場以外ではいかなる理由があっても受験できません。必ず、指定された試験会場に向かうようにしてください。同じ高等学校の生徒でも受験教科・科目数などにより別会場となることがあります。必ず自分の受験票に記載されている試験会場に向かいましょう。

急病(インフルエンザや風邪など)やケガにより、試験(2日間もしくはいずれか1日)を受験できない状況となった場合、受験票記載の「問い合わせ大学」に連絡をしましょう。受付時間内に限り、追試験(※)の受験を申請することができます。

※追試験について

追試験は、以下に該当する事由により、本試験の2日間とも受験できないか、どちらか1日を受験できない場合に受験することができます。

○病気・負傷により試験を受験できない者

○試験会場に向かう途中の事故により試験を受験できない者

○その他のやむを得ない事由(両親等の危篤・自宅の火災等)により試験を受験できない者
追試験の実施期日は1月26日(土)・27日(日)で、本試験とは異なり、全国で2会場(東京芸術大、京都教育大)でしか実施されません。

なお、追試験の受験教科の単位は2日分又は1日分の教科・科目です。本試験のそれぞれの試験日で1つの教科・科目でも受験した場合は、当該試験日の追試験の対象者とはなりません。

☆試験中に注意したいこと

試験室に入ったら、机の上の受験番号が受験票の受験番号と同一であることを確認して、着席しましょう。自分の席の確認ができたら、トイレ等の位置も確認しておきましょう。試験室によってはトイレが遠かったり、数が少なかったりすることもあります。時間に余裕のあるうちにトイレを済ませよう心がけましょう。

試験時間中、受験票、写真票のほかに机の上に置けるのは黒鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、時計、眼鏡、ハンカチ、ティッシュペーパー（中身だけ取り出したもの）、目薬、メモ・計算用のシャープペンシルです。参考書などは試験開始前に試験監督から指示が出たら、すみやかにカバンにしまいましょう。

携帯電話等の電子機器類は試験室に入る前に必ずアラーム設定を解除し、電源を切っておきましょう。試験時間中に身に付けていたり、手に持っていたりすると不正行為とみなされることがあります。

■試験開始前 受験科目のマークの誤記入に注意

解答用紙には、解答のマーク欄のほかに、解答科目（受験科目）、受験番号、試験場コード、氏名のマーク・記入欄があります。いずれも試験開始直前に試験監督の指示に従い、マーク・記入することになります。とくに受験科目にマークされていなかったり、複数科目がマークされていたりすると0点になってしまいますので、注意したいところです。

なお、試験終了直後に、再度受験科目がマークされているかを確認する時間が設けられています。誤りや未マークである場合には、手を挙げて試験監督を呼びましょう。立会いのもと修正することができますので、落ち着いて指示に従いましょう。

入室終了時刻を過ぎると、試験終了まで退室は認められません。試験中にどうしてもトイレに行きたくなった場合は、監督者付き添いのもと、行くことは可能です。ただし、試験時間の延長は認められませんので、トイレ等は休憩時間に早めに済ませておきましょう。

■自分の解答は問題冊子に転記を忘れずに

センター試験の得点は、4月以降にならないと開示されません。そこで、試験後に公表される解答・配点を見て、自分で採点（自己採点）をする必要があります。問題冊子は持ち帰ることができますので、自分の解答は問題冊子の各設問の選択肢に丸をつけるなどして、試験中に転記しておきましょう。

センター試験後の出願校の検討には、自己採点した得点が欠かせません。採点ミスにより数点差があるだけで、合格可能性が大きく変わってしまう場合があります。転記ミスや転記漏れに気をつけましょう。

■受験科目の選択・解答順は先に決めておく

いずれの登録教科も試験開始後に問題冊子を見てから受験科目を決めることができます。しかし、志望校の「指定科目」「成績利用方法」を考慮したうえで受験する必要があるため、実際には受験す

る科目は事前に決めておかなければいけません。なお、地歴・公民では、「世界史A」と「世界史B」、「倫理、政治・経済」と「倫理」など、同一名称を含む2科目を選択することはできません。

理科②または地歴・公民を2科目受験する予定の受験生は、選択科目の解答順に注意が必要です。理科②、地歴・公民を1科目のみ可否判定に利用する場合、成績の利用方法は「高得点科目の成績を利用する」大学と「第1解答科目の成績を利用する」大学があります。国公立大の多くは「第1解答科目」の利用を表明していますし、私立大でも難関大を中心に「第1解答科目」の成績を利用します。「第1解答科目の成績利用大学」に出願する場合、選択可能な科目を必ず「第1解答科目」で受験しておかなければなりませんし、受験した2科目とも選択可能な科目であっても高得点となり得る科目を「第1解答科目」で受験しておきたいものです。どちらの科目を「第1解答科目」で受験するのは、試験開始後に決めることができますが、以上の理由から事前に決めておく必要があるでしょう。

■リスニングの注意事項

英語リスニングは試験の性質上、遅刻は認められていません。試験開始時刻である17時10分以降は入室できません。ICプレーヤーの操作準備は、解答用紙裏面の表示に従い、受験者が各自で行います。機器の操作方法については、[受験案内](#)の41ページを参照するか、大学入試センターのホームページにある「[ICプレーヤー操作ガイド](#)」を利用し、事前に確認しておくといでしょう。

解答は設問ごとに解答用紙にマークしましょう。音声の再生終了とともに試験が終了するので、他教科のように解答を問題冊子に記入しておいて最後にまとめてマークする時間はありません。ICプレーヤーからイヤホンが抜けたり、耳からはずれたりして、その間音声が聞き取れなかったとしても救済措置はありません。くれぐれもICプレーヤーを机から落とすなどしないようにしましょう。

ICプレーヤーのボタンを長押ししてもランプが光らない、音声流れない、音声聞き取れない、問題冊子の印刷が不鮮明で解答に支障があるといった場合は、ためらわずに手を挙げて試験監督に知らせましょう。試験終了後に、音声の不具合を申し出ることはできません。

解答時間中の質問は一切受け付けられませんが、試験監督に申し出なければならない事由が発生したら、黙って手を挙げて知らせましょう。試験監督とのやり取りは、周囲の解答者の妨げとならないよう、声を出さずに所定の用紙を使用した筆談で行われます。

「試験監督の指示に従わず、ICプレーヤーを操作する」「ICプレーヤーの故障について虚偽の申し出をする」「ICプレーヤー・音声メモリーを試験室から持ち帰る」といった行為は不正行為となることがありますので注意してください。 <kei-net より>

1月の模擬試験

- ・1月7日（月）～1月8日（火） <高校1年生～高校3年生> Kバック
- ・1月15日（火） <高校1年生> 進研総合学力テスト
<高校2年生> 進研総合記述
- ・1月19日（土）～1月20日（日） <高校3年生> センター試験
- ・1月26日（土） <中学1年生～高校1年生> 英検

